





⑨ 戦後の日本(2)



とうかいどうしんかんせん かいつう
東海道新幹線の開通
しほの 昭和39(1964)年10月1日より、東京～新大塚間
で運転が開始された。高速鉄道が全国に広がっていった。
写真提供：共同通信社



とうきょう ひら
東京オリンピック開かれる
昭和39(1964)年10月10日から24日まで、第
18回オリンピックが東京で行われた。
写真提供：共同通信社



あにち 全国に伸びる高速道路網
車が増え、高速道路が全国に網の目のように
広がっていった。需要がますます盛んになった。
写真提供：共同通信社



ばんこく 万国博覧会開かれる
昭和45(1970)年3月14日～9月13日、
大阪府千里 在 地で日本万国博覧会が開かれ、77カ国
が参加した。アメリカ館にある「月の石」が話題となっ
た。
写真提供：共同通信社



しんじゅく 新宿副都心ビルの高層化
都庁が新宿に移転して、ますます都市の高層化が進んだ。
写真提供：共同通信社



たいやう 大量消費生活のあと
生活の豊かさは、大量のごみを産み出した。
グラウンドに埋め上げられたごみの山。
写真提供：共同通信社



こくさいしよく 国際色 あふれる渋谷の町
思 大バザールのスクランブル交差点。外国人の多い国際色
あふれる町。
写真提供：共同通信社



ほうしよく 飽食の時代
ものが豊かとなり、大量消費生活が実現した。全盛100
円の回転すし店。
写真提供：共同通信社



こうどう 高度情報化社会の到来
パーソナルコンピュータが社会に普及し、通信手段として
の電話が携帯電話となりスマートフォンへと進化していった。
写真提供：共同通信社

戦後の日本(1)

戦後日本の復興

は、空襲による火災で焼け野原となりました。それでもよばれる粗末な家を建てて、歩みを始めました。戦後の「統制経済」でした。食糧は決められた量が配給されての生活に足りる量ではありませんでした。「ヤミ市」と店が駅前に並び、様々な生活用品が町で売られて食糧不足を補うため、町の人々は農村へ「買い出し」に食の女性たちが薪物を一枚一枚と食べ物に換えていくの皮になぞらえて「タケノコ生活」と呼ばれました。

で家を焼かれ、家族を失った子どもたちは「戦災孤児」と駅周辺に集まり盗みを働く子どももいて、浮浪児としてました。
く起きた「朝鮮戦争」(1950～1953)は、戦後の日本経済をになりました。日本は特需景気を足がかりに、高度経済する力を蓄えていきました。
器」と呼ばれる家庭電化製品が、日本中の家庭に普及し、冷蔵庫、白黒テレビのことで、さらに、経済成長が進み、器」と呼ばれるものも出てきました。車、クーラー、カラーで、3Cとも呼ばれました。



新橋公設市場 (ヤミ市)

昭和21(1946)年2月、新橋駅から見た闇市の様子。新橋にはたくさんの露店が並んでいる。写真提供: 昭和館



買い出し列車で食料探し

昭和23(1948)年9月 岩手県 写真提供: 昭和館



サンフランシスコ講和条約に署名

昭和26(1951)年9月8日、米国サンフランシスコのオペラハウスで対日講和条約に調印する吉田茂首相。写真提供: 共同通信社



朝鮮戦争特需で活気づく
東京証券取引所

昭和25(1950)年6月 写真提供: 共同通信社



沖縄返還

昭和47(1972)年5月15日、沖縄が日本に復帰した。写真提供: 昭和館



カラーテレビ「新・三種の神器」

写真提供: 共同通信社

終戦

終戦

ますます激しさを増し、2度の原爆投下とソ連の参戦にはポツダム宣言を受け入れ降伏しました。昭和20(1945)年8月15日、天皇の「玉音放送」で国民は戦争が終わったことを知りました。

終わってからも毎日の生活に困る日々が続きました。日本人は大変な苦勞をして日本にもどってきました。

最高司令官のマッカーサーが日本に来て、GHQによる統治が始まりました。9月にはアメリカの軍艦の上で、戦争のことを認める降伏文書に調印しました。ふたたび日本が平和な生活ができるのは、昭和26(1951)年9月8日のサンフランシスコ講和条約を結んでからでした。



バラック小屋が建つ銀座地区

写真提供 昭和館



終戦を知らせる玉音放送

昭和20(1945)年8月15日、ラジオから流れる昭和天皇の声を聞いて泣く人々。

写真提供 共同通信社



マッカーサー元帥、厚木飛行場到着

昭和20(1945)年8月30日、日本通駐のため厚木飛行場に降り立ち、先着の軍幹部らに迎えられ、連合国軍最高司令官マッカーサー元帥(前列左のサングラス)。

写真提供 昭和館



降伏文書調印式

昭和20(1945)年9月2日、東京湾に浮かぶ米海軍艦上で降伏文書に調印する米海軍艦上。

写真提供 昭和館



引き揚げ船

昭和20(1945)年10月13日、朝鮮から日本兵の復員船が横濱の港に着いた。

写真提供 昭和館



青空教室で勉強する子どもたち

昭和20(1945)年9月

写真提供 共同通信社

⑥ ひろしま ながさき げんぱく 広島・長崎の原爆

昭和20(1945)年7月、世界初の原爆実験に成功したアメリカは、翌8月6日、広島に史上初の原爆を投下し、9日には、長崎にも投下しました。

いずれも瞬時の閃光と熱線により、広島で約12万人、長崎で約7万4千人の人が亡くなりました。

投下直後に生きのびた人々も、その後、長期にわたって、放射線の被害に苦しみ、明日も知れぬ死の恐怖におびえ、後遺症を引き起こし、大きな苦しみを経験して、多くの人がなくなりました。

広島・長崎の原爆投下後も、原爆実験や水爆実験が繰り返されてきました。



山口町付近の屋上から南を望む

展望すると目をささぎるものは何もなく広島瓦葺広島のガス tank、向平品、そして広島湾に浮かぶ船影が見えました。

第4軍撮影 広島平和記念資料館提供

原爆被害の概(広島市調査統計)
[昭和21(1946)年8月10日現在、家数係を改めます。]

死亡者	11万8,661人
負傷者	7万9,130人
(内訳)	重傷者 3万5,224人
	軽傷者 4万3,906人
全死不明	3,677人
以上の被害者合計	20万1,468人
罹災者の数	11万8,613人

広島平和文化センター「ヒロシマ読本」参照

原爆投下による被害のようす

[昭和20(1945)年 長崎原爆 原爆資料館所蔵資料]

罹災者 7万3,884人(65%は婦人、子ども、家族)

死傷者 7万4,909人

原爆の被害を受けた人 12万820人

(半壊4千メートル以内の罹災、家屋の倒壊入数)

【資料】財団法人長崎平和記念館蔵
長崎原爆資料館、原爆資料館、原爆資料館
7年(1945)の年表、資料



げんぱく ひろしま
原爆によって廃墟となった広島
爆風によって吹き飛ばされて平らになった
地区を歩く日本兵

提供：昭和館



きのこ雲

原爆投下直後の原爆資料館(現在の広島県立広島平和記念館)の広島県立広島平和記念館蔵
原爆投下の瞬間から数分後、原爆資料館(現在の広島県立広島平和記念館)の広島県立広島平和記念館蔵
工から見たものでは最も早い写真。

撮影：松田重三郎氏 長崎原爆資料館所蔵



タスケー(絵)

原爆投下直後の原爆資料館(現在の広島県立広島平和記念館)の広島県立広島平和記念館蔵
7年(1945)の年表、資料

作者：松田重三郎氏 長崎原爆資料館提供



新興善国民学校救護所

撮影：松田重三郎氏 長崎原爆資料館所蔵



まつやままちのかい
松山町高台から浦上天主堂方面を望む

撮影：林重男氏 長崎原爆資料館所蔵



悲しき別れ一茶屋(絵)

長崎原爆資料館所蔵



げんばく はいきよ ひろしま
 原爆によって廃墟となった広島
 ばくふう ふ たい
 爆風によって吹き飛ばされて平らになった
 ち く ある に ほん へい
 地区を歩く日本兵

提供：昭和館



しんこうぜんこくみんがっこうきゅうごしょ
 新興善国民学校救護所

撮影 枘屋 富一氏 長崎原爆資料館所蔵



まつやままちたかだい うらがみてんしゅどうほうめん のぞ
 松山町高台から浦上天主堂方面を望む

撮影 林 重男氏 長崎原爆資料館所蔵



まつやままちたかだい うらがみてんしゅどうほうめん のぞ
松山町高台から浦上天主堂方面を望む

撮影 林 重男氏 長崎原爆資料館所蔵



しんこうぜんこく민がっこうきゅうごしょ
新興善国民学校救護所

撮影 枡屋 富一氏 長崎原爆資料館所蔵



ぐも きのこ雲

こうやぎじま げんざい こうやぎまち かななみぞうせんじょ げんざい みつびしじゅうこうぎょう かぶ ながさきぞうせんじょこう
 香焼島(現在の香焼町)の川南造船所(現在の三菱重工業(株)長崎造船所香
やぎこうじょう ばしょ み げんしぐも げんしばくだんさくれつ ふんご さつえい ち
 焼工場の場所)から見た原子雲。原子爆弾炸裂15分後に撮影したもので、地
じょう うつ もつと はや しゃしん
 上から写したものではありません。

撮影 松田弘道 氏 長崎原爆資料館所蔵



ご や た ぎんざ ち く
バラック小屋が建つ銀座地区

写真提供: 昭和館



こうふくぶんしょちょういんしき
降伏文書調印式

昭和20(1945)年9月2日、東京湾に浮かぶ米国軍艦ミズー
リ号で降伏文書に調印する全権の重光 葵外相。
こうふくぶんしょ ちょういん ぜんけん しげみつ けい がいそう

写真提供:昭和館



しゅうせん し ぎょくおんほうそう
終戦を知らせる玉音放送

昭和20(1945)年8月15日、ラジオから流れる昭和天皇の^{なが}こえを
聞いて^な泣く^{ひと}人たち。

写真提供: 共同通信社

聞いて泣く人たち。

写真提供：共同通信社

昭和20(1945)

こうふくぶんしょ
リ号で降伏文書に



げんすい あつぎひこうじょうとうちやく
マッカーサー元帥、厚木飛行場到着

にほんしんちやう あつぎひこうじょう
昭和20(1945)年8月30日、日本進駐のため厚木飛行場に
お た せんちやく ぐんかんぶ むか れんごうこくぐんさいこうしらいかん
降り立ち、先着の軍幹部らに迎えられ、連合軍最高司令官

げんすい ぜんれつひだり
マッカーサー元帥(前列左のサングラス)。

写真提供：昭和館

られる、連合国軍最高司令官

ガラス)。 写真提供：昭和館



あおぞらきょうしつ べんきょう こ
青空教室で勉強する子どもたち

昭和20（1945）年9月

写真提供：共同通信社

昭
元香家
駅前



ひ あ せん
引き揚げ船

昭和20(1945)年10月13日、^{ちょうせん}朝鮮から^{にほんへい}日本兵の^{ふくいん}復員
^{せん}船が^{ふくおか}福岡の^{みなと}港に^つ着いた。

写真提供:昭和館



ちょうせんせんそうとくじゅ かつ き
朝鮮戦争特需で活気づく
とうきょうしょうけんとりひきしょ
東京証券取引所

昭和25（1950）年6月 写真提供：共同通信社



しんばしこうせつしじょう いち
新橋公設市場（ヤミ市）

しんばしえき み やみいち ようす
昭和21（1946）年2月、新橋駅から見た闇市の様子。
えきまえひろば ろてん なら
駅前広場にはたくさんの露天が並んでいる。 写真提供：昭和館





か だ れっしや しょくりょうさが
買い出し列車で食料探し

昭和23（1948）年9月 いわてけん 岩手県

写真提供：昭和館





こうわじょうやく しよめい
サンフランシスコ講和条約に署名

しょうわ べいこく
昭和26(1951)年9月8日、米国サンフランシスコのオペラハ
たいにち こうわじょうやく ちょういん よしだしげるしゅしょう
ウスで対日講和条約に調印する吉田茂首相。

写真提供: 共同通信社

サンフランシスコのオペラハ

リゾルショ
田茂首相。

写真提供：共同通信社



に復帰した。

写真提供：昭和館



カラーテレビ「新・三種の神器」
さんしゅ しんき

写真提供：共同通信社

昭和3
かい
18回水



とうかいどうしんかんせん かいつう
東海道新幹線の開通

しょうわ とうきょう しんおおさかかん
昭和39(1964)年10月1日より。東京～新大阪間
うんでん かいし こうそくてつどう ぜんこく ひろ
で運転が開始された。高速鉄道が全国に広がっていった。

写真提供：共同通信社



とうきょう ひら
東京オリンピック開かれる

昭和39(1964)年10月10日から24日まで、第

18回^{かい}オリンピックが^{とうきょう}東京で行われた。

写真提供：共同通信社





りんじしょうしゅうれいじょう
臨時召集令状

国が国民に対して軍隊に入るように指示した書状。「赤紙」ともいいます。

十人針

戦地に向かう兵隊が身につけた布製のお守りで、これを腰に巻いていると弾に当たらないという縁起をかついだものです。千人の女性が一针ずつ刺したのでこの名がつけました。虎の縁は、虎は千里行った



軍人勅諭
軍人勅諭

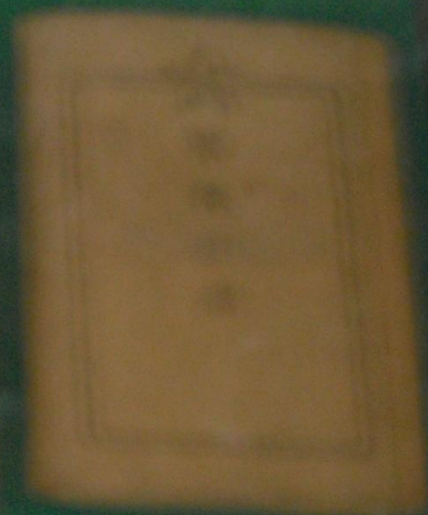


戦陣訓
戦陣訓



軍隊手帳
軍隊手帳

下主官や兵士の身分証明書兼履歴簿





ぎょう しょう せいご きょうかしよ
 業で使用された英語の教科書
 (昭和17年に使用)
 神谷 正一 様 寄贈

せんじ か きょうかし
 〈戦時下の〉ヨミカタの教科書

音楽

中学校教科書

2

中学校教科書刊行式

戦時下の音楽の教科書

いりようきつぷ

衣料切符

いりよう けいれい せいのり けいりょう せんすう せいのり
衣料を配給するために政府が発行した点数票

すいとう
水筒

そうがんきょう
双眼鏡

てつかぶ
鉄兜

ほうだん
砲弾

せん そう かん けい ぶ っ び ん
戦争関係の物品

へいたい つか はん
〈兵隊が使っていた〉飯ごう

さし
棹ばかり



ぼうどく
防毒マスク

第一次世界大戦から、毒ガス攻撃に対する防御として、防毒マスク
が考案され、軍隊用と民間用の2種類がありました。

とうきせい
陶器製の

戦争で金属が不足し、

せんじか

戦時下の

⑤ がくどうそかい 学童疎開

がくどうそかい 学童疎開

空襲から子どもたちの生命を守るため、また終戦直前で延年までと
なることを避けるために、学童疎開が昭和19(1944)年8月から実施さ
れました。東国疎開した学童の数は東京府全体で合計20万人以上に
のぼります。

世田谷区の学童の東国疎開先は新潟県と長野県でした。空襲の被害
から逃れたとはいえ、戦火から遠く離れた土地に加え、食糧不足など
もあり、疎開先での生活は苦を逼ってみじめになっていきました。

世田
学童

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

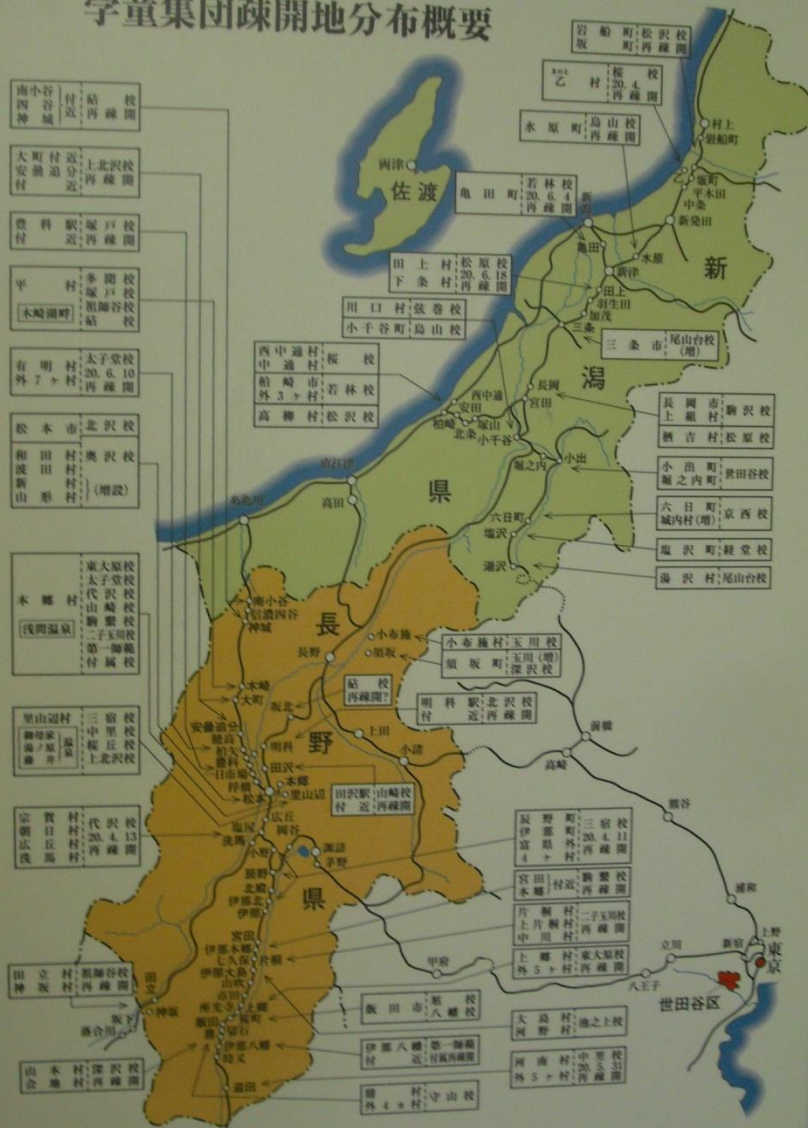
世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区	学童	疎開
------	----	----

世田谷区内公立国民学校の 学童集団疎開地分布概要





おやつ時間

若林国民学校

「学童疎開とたべもの」

子どもたちは、お母さんとの面会が楽しみでした。お母さんたちは家庭の配給物を食べずにとっておき、ヤミ物資をむりして買い、家にあるものでポタモチを作ったり、ドーナツをあげたりしました。そして、満員の列車に立ち通しで、子どもに会いに来ました。

お腹がすいたら、口に入るものは何でも食べたいです。近所の畑のサツマイモ、なまの大根、草や木の実、カタツムリの串焼き、消化剤のワカモトやエビオス。甘いものがほしくて、歯みがき粉や絵の具をなめた人もいました。

とうきょうくうしゅう 東京空襲

アメリカ軍による東京への空襲は、昭和17(1942)年4月17日が最初です。その後、昭和19(1944)年8月マリアナ諸島(グアム・サイパン・テニアン島)が、アメリカ軍の占領下に入ってから、日本本土への空襲が容易になり、昭和19(1944)年11月24日の中島飛行機製作所等への空襲以降、毎日のように B29爆撃機が来襲するようになりました。

そして、昭和20(1945)年3月9日の夜、B29爆撃機が、グアム・サイパン・テニアン各島から総計334機、約2000トンの焼夷弾を満載して、東京へ向かって飛び立ちました。

目標は東京の下町(浅草・両国周辺)でした。3月10日午前零時す

ぎから約2時間半にわたり焼夷弾を投下しました。

寝込みを襲われた人々は逃げまどいました。道路は火が走り、街全体がガスバーナーのように熱くなり、川に飛び込んだ者は水面から出た手足を焼かれ、地下室の者は蒸し焼かれ、一晩で死者10万人以上、家を焼かれた者は100万人以上に及びました。

世田谷区では、昭和19(1944)年11月29日から空襲が始まり、3月10日の東京大空襲以降激しくなりました。特に、5月24、25日の空襲では、区役所、旭国民学校、多聞国民学校が全焼し、また三宿国民学校、東大原国民学校が半焼するなど大きな被害がありました。



がいかく みつこし いせたん
外郭だけの三越と伊勢丹

しょうわ
昭和20(1945)年5月
しんじゅく駅前通りに、建物の外郭だけが残さ
れた三越(右)と伊勢丹(左)

写真提供: 共同通信社



しゅうだんそかい も
集団疎開から戻

しょうわ
昭和20(1945)年3月9日、卒
の夜、大空襲に見舞われた。

空襲では、区役所、旭国民学校、多聞国民学校が全焼
たもんこくみんがっこう ぜんし
こくみんがっこう ひがしおおはらこくみんがっこう ほんしやう
 国民学校、東大原国民学校が半焼するなど大きな損
 害を受けた。

世田谷



いせたん
 伊勢丹

たても のこ
 二、建物の外郭だけが残さ

写真提供：共同通信社



しゅうだんそかい もど き こども
 集団疎開から戻って来た子供たち

しょうわ
 昭和20(1945)年3月9日、卒業式で集団疎開から戻って来た日
そつぎようしき しゅうだんそかい もど き ひ
よる だいくしゅう み ま
 の夜、大空襲に見舞われた。

毎日新聞社 決定版昭和史⑫



しょうわ
 昭和19(1944)年1
らいしゅう はいほう たい
 来襲の警報があつて待